

病虫害発生予報 第1号(4月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所
TEL 0736(64)2300

<予報の概要>

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	やや少 やや少	野菜全般	灰色かび病 ミカンキイロアザミウマ	並 並
タマネギ	灰色かび病 白色疫病 べと病	並 並 並	カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ	並 並 並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病	やや少 並	カキ	うどんこ病	並
キャベツ	コナガ	やや少	ウメ	かいよう病	並
			果樹全般	カメムシ類	少

気象予報

1か月予報(予報期間3月22日～4月21日 大阪管区气象台)

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】近畿地方



【降水量】近畿地方



【日照時間】近畿地方



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (℃)	月降水量(平年値) (mm)
4月	和歌山 14.9	和歌山 100
	潮岬 15.7	潮岬 213

I. 水 稲

1. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 やや早 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市2.0頭、成虫率83%（平年7.5頭、成虫率23%）、紀の川市1.3頭、成虫率25%（平年8.5頭、成虫率28%）、かつらぎ町3.7頭、成虫率46%（平年2.3頭、成虫率22%）であった。

2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 やや早 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市7.7頭、成虫率70%（平年28.7頭、成虫率31%）、紀の川市1.0頭、成虫率0%（平年3.1頭、成虫率17%）、かつらぎ町5.7頭、成虫率88%（平年9.0頭、成虫率34%）と平年に比べてやや少なかった。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域での3月5半旬現在の発生ほ場率は0%（平年0%）と平年並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 下位葉に病斑を認めたら早めに薬剤防除を行う。

2. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域での3月5半旬現在の発生ほ場率は18.2%（平年13.6%）と平年並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に片寄りがみられることがあるので、発生が集中的にみられるところは特にていねいに薬剤散布を行う。

3. べと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北地域での3月5半旬現在の越年罹病株の発生ほ場率は12.1%（平年3.1%）、新病斑の発生ほ場率は6.1%（過去5年の平均7.3%）であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 前年度の発生ほ場では4月上旬から薬剤防除を行う。また現在未発生のほ場でも、周辺からの二次伝染が予想される場所では予防散布を行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培での3月5半旬現在の発生ほ場率は8%（過去5年の平均23%）と平年よりやや少なかった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 雨が多いと多発するので薬剤防除は早めに行う。

② 過湿ほ場では発生が多いので、排水対策に努める。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀中地域の露地栽培および施設栽培での3月5半旬現在の発生ほ場率は4%（平年2%）と平年並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期から薬剤防除を行う。

<キャベツ>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 紀北地域では3月5半旬現在、発生を認めていない（平年発生ほ場率3.3%、平年発生密度0.0頭/10株）。

② フェロモントラップによる3月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市6頭（平年13頭）、和歌山市10頭（過去2年の平均138頭）と平年に比べやや少ない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同系統の薬剤は連用しないこと。

<野菜全般>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市のイチゴでの3月5半旬現在の発生圃場率は30%（前年0%）であった。

② 紀中地域の施設栽培キュウリでの3月5半旬現在の発生ほ場率は0%（過去7年の平均1.4%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、耐性菌回避を考慮した薬剤のローテーションに努める。

2. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域のイチゴでは3月5半旬現在、発生を認めていない（平年発生

ほ場率3.5%、平年発生密度0.0頭/10花)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 気温の上昇とともに4月上旬頃から密度が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬(平年並)
春葉発病量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における春葉の越冬病斑量(発病葉率)は10.3%(平年19.9%)と平年より少なかったが、夏秋梢に越冬病斑がみられた。
② 紀北(海南市下津)、紀中、紀南(田辺市以北)における昨年10月の春葉の発病園率は6%(平年16%)であった。
③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除とともに防風施設の整備に努める。
② 発芽前の銅剤散布ができなかった園では、新梢伸長期に散布する。

2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 平年並
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 紀北(海南市下津)、紀中、紀南(田辺市以北)における昨年8月の果実の発病園率は6%(平年3%)であった。
② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発園および前年多発園では、越冬病斑の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における3月中旬の発生は平年並で、慣行防除園における発生は認められなかった。
② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が問題となるため、夏期までは発生時に97%・98%マシン油乳剤を散布することが望ましい。ただし、他剤との散布間隔に注意する。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 昨年10月の「富有」の発病葉率は27.4%(平年35.9%)と平年並であっ

た。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう孢子飛散最盛期の4月下旬～5月上旬に水和硫黄剤を散布する。昨年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布することが大切である。

<ウ メ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① みなべ町、田辺市における昨年6月上旬の発生面積および病果率はともに平年並であった。秋期の気象経過と併せて潜伏越冬病斑は平年並と考えられる。うめ研究所内無防除樹での潜伏越冬病斑は3月5半旬現在認められない。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。
- ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回、抗生物質剤を散布する。強風雨直前に散布すると予防効果が高い。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 県内全域64地点の落葉中におけるチャバネアオカメムシ成虫の越冬量は少なかった(1地点落葉50%当たり0.06頭、過去12か年平均0.42頭、前年1.06頭)。

② 県南部18地点での落葉中のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲地点数、捕獲頭数も平年に比べ少なかった(本年2か所、2頭、極端に越冬量が多かった平成8年を除く過去20か年は平均4.1か所、7.4頭、前年7か所、22頭)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ウメ・モモなどでは収穫前の越冬成虫の多飛来に注意する。
- ② カメムシ類の最新の発生状況は、農業環境・鳥獣害対策室ホームページ内の農作物病虫害防除所コーナー果樹カメムシ情報を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ホームページ <農作物病虫害防除所コーナー>

[http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujyouhou.html](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。